

項目		説明
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	肺部分切除における不十分な腫瘍マージンの術前 CT 予測因子
	研究対象者	2015 年 1 月から 2025 年 12 月に当センター呼吸器外科にて、肺腫瘍と診断された患者さんのうち、部分切除治療を受けられた方
	研究目的	肺部分切除では、病変を確実に取り除くために、病変の周囲に正常な肺組織を含めた十分な切除範囲、すなわち「腫瘍マージン」を確保することが重要です。本研究では、肺部分切除を受けた患者さんの手術前 CT 画像を用いて、腫瘍の大きさ、位置、深さ、肺門部や気管支・血管からの距離を評価し、腫瘍マージンが不足しやすい画像所見を明らかにすることを目的とします。
	研究方法	肺部分切除を受けた患者さんの手術前 CT 画像を用いて、腫瘍の大きさ、位置、深さ、肺門部や気管支・血管などの中枢側構造からの距離を調べます。これらの情報は、通常の CT 画像に加えて、3 次元画像解析ソフトウェアである Synapse Vincent を用いて測定します。そして、手術後の病理検査で確認された実際の腫瘍マージンと比較し、どのような CT 所見がマージン不足と関連するかを統計学的に解析します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 9 月 2 4 日 ～ 西 暦 2 0 2 9 年 1 2 月 2 4 日
	利用又は提供を開始する時期	[✓]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利 用 す る 試 料・情報の項 目（チェック[X] が入った項目を 利用します）	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[✓] 情報:	[✓] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[✓] 年齢、[] 生年月日、[✓] 性別、[✓] 既往歴、[✓] 併存疾患、[✓] 外来日・入院日・退院日、[] 臨床検査値、[✓] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[✓] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[] ゲノムデータ、[] 看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の 範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 呼吸器外科 伊藤 宏之
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		施設名・所属・氏名・連絡先 神奈川県立がんセンター ・ 呼吸器外科 ・ 高田一樹 045-520-2222（代表） 利用停止のお申し出は 2027 年 03 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります